



# No.129



朝礼様子 (たしざん福祉作業所)



ふくしパン工房・工房内様子 (たしざん福祉作業所)



軽作業～この青色キャップは、分けるもの～  
(品川区立かがやき園)



社会見学～国会議事堂、見学しました～  
(品川区立かがやき園)

## INDEX

強度行動障害支援アドバンス研修について … 2	施設紹介「品川区立かがやき園」…………… 6
令和2年度第2回総会 報告 …………… 3	施設紹介「たしざん福祉作業所」…………… 7
人権擁護委員会「じんけんBoard」…………… 4	リレーコラム、編集後記 …………… 8

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●東社協ホームページ (<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>) からご覧いただけます。

# 「令和2年度 強度行動障害支援アドバンス研修」について

強度行動障害支援指導者養成特別委員長 竹矢 恒

## 強度行動障害支援アドバンス研修とは？

強度行動障害支援アドバンス研修は、東京都社会福祉協議会が主催をし、平成26年より開始され、今年で7年目を迎えます。本研修は、強度行動障害支援者養成研修の基礎・実践の修了者を対象とし、現場で指導的な立場にある方を対象とした研修となっています。当初より鳥取大学医学部教授の井上雅彦先生にご協力頂き、応用行動分析学に基づいた支援方法を学びつつ、実際にグループリーダーやインストラクターからアドバイスを受けながら現場で介入を行うPlan-Do-See型の研修を行っています。また、インターネットや情報端末等のInformation and Communication Technology (ICT) を用いた情報共有を体験することも目的としており、行動の記録、報告、スーパーバイズをネット上で行えるのも本研修の特徴です。研修カリキュラムは、グループワークを中心とした参加型となっており、1グループ、3名の参加者に対し、1名ずつのインストラクターとグループリーダーを配置し、ICTのレクチャー等も含め、極めて手厚い体制で受講者をサポートしています。

## 新型コロナウイルス感染予防の観点から

今年度は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、Zoomを利用したオンライン研修で実施

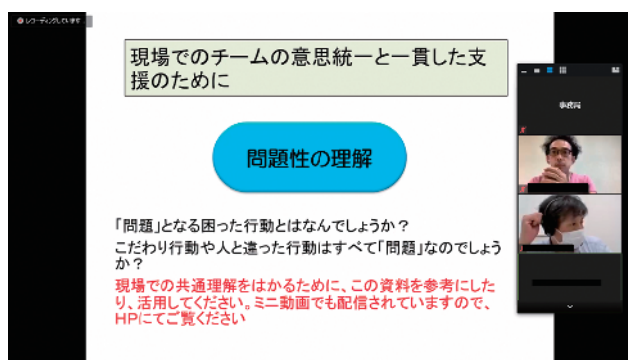
しています。研修は、月に一回実施し、講義とグループワークで事例検討を行っています。グループワークは、Zoomの機能であるブレイクアウトセッションを活用しています。

その他にもSlackというコミュニケーションツールを利用して、受講者の日々の相談やグループリーダーやインストラクターからのアドバイス等も実施しています。また、研修後に様々なデータを収集しますが、データの共有等もSlackで行われています。

受講者側にも様々なテクノロジーが提供されています。研修では、強度行動障害の状態にある利用者の日々の記録をデータとして整理できるスマートフォン用のアプリケーション「observations」が、鳥取大学で開発され、活用しています。

## 今後について

強度行動障害支援における重要なテーマである連携やスーパーバイズについて、オンラインで、より簡易的に達成できる可能性に気づくことが出来ました。地域で困っている利用者、また、その支援に困っている支援者にオンタイムで相談を受け、オンタイムで助言が出来る可能性は、強度行動障害支援において、大きな前進になるのではないかと考えています。



資料を画面共有しながら講義を聴講



ZOOMミーティングの様子

# 知的発達障害部会 令和2年度 第2回総会

葛飾通勤寮 京地 正純

## ① 初のオンライン総会開催

本年度は昨年度末より発生している新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全国的に研修や集会を行うことが難しい状況となっております。東社協知的発達障害部会においても同様で役員会や、委員会活動などはweb（zoom）での開催に変わっています。

今回、そういった背景から第2回総会においてもwebで開催されるはこびとなりました。「議決事項」、「報告事項」については10月26日～11月1日の期間中、本部会の会員専用ホームページ上で動画での報告とし、文書審議にて議決いたしました。また、本総会の開催と合わせて「行政説明」、「事例報告」、「事業説明」については10月27日にzoomウェビナーによるライブ配信にて説明が行われました。

## ② 議決事項と報告について

本総会の議決事項については、新型コロナウイルス感染症の流行もあり慶弔規定の一部改正について審議が行われています。報告事項では、「令和3年度東京都予算要望書の提出について」、「令和二年度上半期報告および下半期計画について」、「感染症対策衛生用品の購入、備蓄について」各々報告いたしました。また、本部会では感染症対策衛生用品（フェイスシールド1,000セット※シールド10枚で1セット、アイソレーションガウン10,000枚）を備蓄していて、集団感染の発生によって衛生用品が不足する際は無償で提供が可能となっていることなども報告されました。

## ③ 東京都 行政説明について

本年度の行政説明は、前述の通りzoomウェビナーによる配信にて東京都福祉保健局 障害者施策推進部 施設サービス支援課より①新型コロナウイルス感染症対策関連の各種支援事業について②その他事業について③連絡事項のご説明いただきました。「障害者支援施設における新型コロナウイルス感染症の集団感染発生時の職員応援派遣事業について」は事業説明にて詳しくご説明いただきました。



ZOOM ウェビナーによる事例報告の配信

## ④ 集団感染発生事例報告について

「事例報告」では、「障害者支援施設における新型コロナウイルス集団感染発生事例報告」として社会福祉法人友愛学園事務局長 内山 敏氏より、4月に「はあとぴあ原宿」でおきた集団感染の事例をご報告いただきました。法人の広報誌も交えながらお話いただき、4月当初の検査体制もまだ整っていない中での現場の悲痛さや大変さがとても伝わってきました。特に広報誌内、施設長の記事にもあった、クラスター発生時の状況や現場の様子、現場と外との世界の違いを感じながら通勤する不安感など、深く胸に響くものがありました。内山氏の「この職業を選んだということは平時だけでなく有事にも対応することであること、自ら利用者の人生に関与していくという道を選んだということ」というお言葉に一支援員として身が引き締まる思いと共に、不安の続く社会で支援する私たちの背中を押していただけたような気持ちになりました。また、管理者としての責務、現場で関わる職員の気持ちにどれだけ寄り添うことができるのかといった話もあり、現場だけでなくコロナとの闘いは様々な立場で繰り広げられており「新型コロナウイルスの怖さは、病気としての感染もですが、一番は『人の心をむしばむ』感染だということ」といった言葉にとっても考えさせられました。内山様をはじめ、友愛学園の皆様におかれましては、貴重なご報告をいただき、誠にありがとうございました。

# じんけん Board

わたしの



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

毎日、帰る前にユニットを周りフロア全員に挨拶をしてから帰る職員の皆様。コミュニケーションが難しい方が多いのですが、日々の積み重ねで信頼関係構築に繋がっていると思い、素敵な支援の一つだと思いました。

ご利用者の強みを見つけ洗濯を手伝ってもらう事で、ご利用者の成功体験に繋がった職員にニヤリ。なにより洗濯物の仕分けを手伝って下さったご利用者にニヤリ。

利用者のご家族がお亡くなりになった事をご本人に伝えるという役割を丁寧に進めていた職員。なかなか難しい気の重い対応だったにもかかわらず最後まで利用者本人の気持ちに寄り添っていてあたたかい支援だと思った。

いつもご家族への電話対応が丁寧な職員がいます。伝え方が上手で、相手の気持ちを考えながら話しているのだろうなと思いつつも勉強になっています。

新型コロナウイルスの影響で外出が難しい代わりに、外の自販機でジュース購入&お茶会を企画し、実施までの準備を協力して進めていました。ご利用者の素敵な笑顔を見る事が出来ました。

活動時間で紙ちぎり以外なかなかできないご利用者が、職員の声掛けと工夫によりいつもと違う活動にチャレンジできました。

今年は旅行が中止になり、温泉の代わりにいつもと違う入浴剤を使用しました。入居者様からは「今日、いつもと違ってたよ」と言われたので「何が違ったの??」と聞くと「いつもの色ではなくて、青だったよ」「匂いも違っていい匂いだったよ」と笑顔で話していました。入浴剤1つで嬉しそうに話している入居者様を見てニヤリとしました。



支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

最優秀作品

やっちやダメ  
言うより先に  
見せちやダメ

作・ちえき

作品背景

気になってからその行動を制止するのではなく、目に留まらないように工夫するべきだと思います。

優秀作品

いけないよ  
使いすぎでも  
いけないよ

作・花

作品背景

「ふしてはいけないよ」と支援でお声かけする場面があるかと思いますが、利用者はよく見ているんですね。ふしてはいけないよと利用者様に伝えると他利用者様も真似をして「いけないよ！」とその利用者様に向かつてお話されるんです。いけないことを伝えるのも大切ですが伝え方に気をつけなければと改めて思いました。

入選作品

「大丈夫」  
心配声は  
火に油

作・ちえき

作品背景

パニックの際「大丈夫」と声をかけても、その声かけが余計にご本人を混乱させてしまうことが多々あります。

職員を  
惑わすけれど  
意味がある

作・慎太郎

作品背景

職員を困らせようとしているわけではないけど、愛情の裏返しなんじゃないかな。

その悩み  
私でよければ  
聞きますよ

作・ポムポム

作品背景

日々悩みが絶えない利用者Aさん。どうしてもB支援員に話を聞いてもらいたいが、B支援員は別件で忙しい。その時C支援員が「私でよければお話し聞きますよ」「少しでもお役に立てれば」と言っていてホッとしていました。

新入りの  
新発想で  
思い出す初心

作・ポムポム

作品背景

新しく来た支援員が、利用者さんと「一緒に」作品作りをしたり、歌を歌ったり、絵を描いたりする姿をみて、日々の業務に追われ、つい忘れ去っていた「こうゆうことがやりたくて支援員になったんだ」という気持ちを感じ出すことができました。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮をお願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
jido@tcsw.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

# 施設紹介

## 品川区立かがやき園

### 【施設概要】

品川区立かがやき園は指定管理者として(社福)福栄会が運営しています。平成16年5月に入所(定員30名)、生活介護(定員30名)、短期入所(2名※現在3名)で事業を開始しました。利用者の希望・意欲を汲み、寄り添いながら安全で安心できる生活環境を整えています。また、利用者の社会参加を促進し、地域の中で利用者・支援者・地域住民の三者が交流を深め、共に暮らす環境作りに取り組んでいます。

### 【活動内容】

日中活動では「生活訓練」「生産活動」「社会見学」「地域交流」等、一人ひとりに応じたサービスを提供しています。ここに園での生活の一部をご紹介します。

「生活訓練」では、体力作りの散歩に“万歩計”を取り入れました。月間歩数ランキング表を作り発表、意欲的に取り組める工夫をしました。また、生活スキル向上のため、食事の配膳・下膳やおかわりの際は、“列に並ぶ”場面を作りました。この習慣は外出時の食事等にも発揮されています。

「生産活動」は、公園清掃・新聞整理・ペットボトルキャップ仕分けの作業を行います。手当が支給され、そのお金で外出の際に好きなものを食べる等の楽しみは、日常生活に緩急が生まれ、ま

た作業への更なる意欲を引出し、労働と消費の循環を体験しています。

「社会見学」は、様々な工場や博物館等を見学する中で、地域の社会資源と繋がることになりました。これにより沢山の新しい人・物との出会いや体験の機会を得ています。そしてこの機会が、園内では見えにくい利用者の「強み」ともいえる一面を引き出すことになりました。「地域交流」での地域の祭り参加でお祭りを楽しみ、本格的なクラシックコンサートの開催では、園に居ながら公共のホールで音楽を楽しむかのように利用者は生の演奏にふれられます。さらに地域の皆様をお招きし一緒に演奏を聴いて頂く中で、地域に開放された園を直に知って頂く機会となるよう交流を深めています。



社会見学～スープができるまでのお話～



朝食準備～スープをのせて、今日は食パン～



音楽会～バイオリンとピアノの音色が響き～

## 施設紹介

### たしざん福祉作業所

#### 「沿革」

NPO法人たしざんは、2017年4月に「障がいがあっても出来ることがひとつ一つ増えますように、関わってくださる方が一人ひとり増えますように」との願いを込めて設立しました。親なき後も心豊かに住み慣れた地域で末永く暮らしていけるように就労継続支援B型事業所（福祉作業所）やグループホームの開設を目標にしています。

#### 「いよいよ作業所開所」

2020年4月に念願の就労継続支援B型事業所である「たしざん福祉作業所」を練馬区三原台3丁目に開所しました。開所後まもなく非常事態宣言が発令され、苦しい船出となりました。ただ、たしざん福祉作業所では、障害区分がたとえ重くてもご本人に働く意思・意欲があれば、出来る限りお引き受けしている事もあって、利用者さんはまだ多くはないものの、笑い声も絶えない明るい雰囲気の中、生き生きと意欲的に働いていて、逆に、職員が助けられています。

#### 「ふくしパン工房たしざん」と「ノウフクたしざん」

たしざん福祉作業所には開所前からの活動であったふくしパン工房たしざんとノウフクたしざんの作業があります。ふくしパン工房たしざんはグルテンフリーの玄米パン・米粉パン・米粉シフォ



黒黒板作業風景



ノウフク種植様子

ンケーキ・グルテンフリークッキーなどアレルギーをお持ちの方、ご病気の方、健康志向の方に好評です。もちろん無添加のため、消費期限は短いのですが、利用者さんが毎日心を込めて作り上げています。広尾にあるインターナショナルスーパーマーケットにも納品しています。とても美味しいので、ぜひご来店下さい。

ノウフクたしざんでは、近隣の農家さんのご協力の下、練馬区土支田で畑作業に取り組んでいます。天候に左右されてしまうこともありますが、暑い夏も終わり、これからは、心地よい風に吹かれながら、土を耕す、種まき、間引き、草取りなどの手入れを行い、収穫まで毎日畑作業があります。職員もストレスフリーの時間です。練馬区の農サポーターの方々の協力もあり、冬には練馬大根をはじめ、美味しい大根が何種類も収穫できます。

こちらも店頭販売しておりますので、新鮮なお野菜もぜひご購入下さいませ。お待ちしております。

## 「新たな働き方を支援する」

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会  
世田谷区立障害者就労支援センターすきっぷ 施設長 西村 周治

新型コロナウイルスの感染拡大により、社会経済活動に大きな影響がありました。当施設でも様々なイレギュラーに対応せざるを得ませんでした。緊急事態宣言下では、自宅待機が可能な方には待機していただき、通所を希望する方も通所日数や時間を短くするなどの対応をさせていただきました。

宣言解除後からは徐々に通所も再開し、通所人数を制限するための在宅支援の実施、通勤ラッシュを避けるための通所時間の変更など、現場レベルでは様々な工夫をし、利用者・ご家族の不安が軽減できるよう調整しました。そのような中、就職活動も再開し始めていますが、今までの就職活動とは異なる、ウィズコロナにおける就職活動に変わりつつあります。

会社見学や説明会は減り、オンラインでの説明会に変わりました。面接も一次面接の段階ではオンラインを通じて行う企業も出てきました。定着支援でも、就職先の会社のパソコンを使っての面談を行うなど、徐々にオンラインでの支援が増え

てきています。このような支援方法の普及は、様々な障害種別の人が働くチャンスを得る、あるいは働き続けることを支える上で、当事者にとっても支援者にとっても有効です。よくも悪くも、コロナ禍において生み出された新たな支援方法と言えます。

働き方も大きく変わり、現在では多くの企業がテレワークを導入しています。テレワークでは通勤時間の削減をはじめとした効率的な時間の使い方ができ、出勤による密を避けることができるなど良いことが多いように思いますが、一方で、出勤して人との関わりの中で仕事を進めていくことを望む人も少なくないはずです。その中には知的障害のある人も含まれるのだと思います。

通勤を含めどのような働き方が最善かは人によって異なるでしょう。そうした「多様な働き方」をどう実現していくのかは、知的障害のある人の就労を支える側にとってもコロナ禍の中での課題だと考えます。

## 編集後記

部会ではじめてのzoomを使用したオンライン研修や総会を紹介しました。少しでも様子は伝わったでしょうか？このスタイルが主流となっていくのかまだわかりませんが、これからも随時報告していきたいと思います。

そして今号から「かがやき」に人権擁護委員会担当のコーナーも設置されました。私は「ニヤリ・ホッと」「川柳ぼーど」を読んだ後、とっても温かい気持ちになりました。コロナ禍の今だからこそ明るく楽しい気持ちに目を向けたいものです。みなさんもちょっと一句詠んでみませんか？

(調布福祉園 佐藤 隆司)